次世代の「語り継ぎ手」になりませんか？

戦後79年を迎え、戦争体験者の高齢化に伴い、

これまで第一線で平和講話（学習）を担ってきた貴重な人材が減少しており、

体験談を直に聞く機会がなくなる日が近づいています。

また、現在活動中のボランティア団体等による平和講話の担い手も高齢化に伴い、

後継者の育成が急務となっています。

この養成講座を受けて、あなたも次世代の語り継ぎ手になりませんか？

令和6年度
沖縄戦の語り継ぎ手養成事業
報告書

沖縄県

1 目的

戦後 79 年が経過し、戦争体験者の高齢化に伴い、これまで第一線で平和講話（学習）を担ってきた貴重な人材が減少しており、体験談を直に聞く機会がなくなる日が近づいている。また、現在活動中のボランティア団体等による平和講話の担い手も高齢化に伴い、後継者の育成が急務となっている。このため、県が複数年度に渡り、毎年度一定の平和講話（学習）を実践できる人材を育成するための養成講座を実施し、次世代の語り継ぎ手を育成する。

2 実施主体

主　　管　　沖縄県平和祈念資料館
受託事業者　　特定非営利活動法人 沖縄平和協力センター

3 事業内容

戦後 79 年が経過し、戦争体験者の高齢化に伴い、これまで第一線で平和講話（学習）を担ってきた貴重な人材が減少しており、体験談を直に聞く機会がなくなる日が近づいている。また、現在活動中のボランティア団体等による平和講話の担い手も高齢化に伴い、後継者の育成が急務となっている。このため、県が複数年度に渡り、平和講話（学習）を実践できる人材を育成するための養成講座を実施する。

講座内容は、座学とフィールドワークからなり、受講生は合計 41.5 時間程度、13 日間にわたる講座を受講した。フィールドワークでは、沖縄県内にある沖縄戦関連施設や戦跡を訪問して、沖縄戦のみならず沖縄の戦後復興についても学びを深めた。

また、本講座は沖縄本島だけでなく、石垣島を主会場として八重山地域でも開催された。戦時中に八重山地域では大きな戦闘はなかったものの、戦争マラリアと呼ばれるマラリアに多くの方が罹患し 3,000 名以上の方が亡くなっている。この悲惨な歴史を伝えるために、八重山地域においても継承活動が行われてきた。しかしながら、沖縄本島と同様に体験者の高齢化、継承活動に従事する方々の高齢化などの課題を抱えており、本事業では継承活動を継続するために八重山地域においても語り継ぎ手の養成講座を実施することとした。

2024 年 7 月から受講生の募集を行い、沖縄本島及び八重山地域を合わせて 50 名以上の申込みがあった中から、沖縄本島の受講生 30 名、八重山地域の受講生 10 名が選考された。12 月 14 日に全日程を終えて、40 名の修了生が誕生しており、彼らが今後の継承活動の担い手である語り継ぎ手として活躍することが期待される。

4 事業実施期間および会場

期間／ 2024 年 9 月～ 12 月初旬までの 13 日間、合計 41.5 時間程度。
　　1 回の講座及び実習は原則各月の土曜日に 3 時間程度、ひと月に 3 回程度の実施
会場／沖縄本島会場、石垣会場

5 実施体制

事業責任者

沖縄県平和祈念資料館　主　査　棚　原　和　宏
沖縄平和協力センター　事務局長　樋　口　洋　平

（株）国際旅行社（協力団体）

事業部 次長　諸見里　一　壽
企画事業部　伊　佐　のどか

沖縄平和協力センター

理 事 長　仲　泊　和　枝
事務局長　樋　口　洋　平（事業総括）
研 究 員　金　城　愛　乃
研 究 員　當　間　千　夏

沖縄県平和祈念資料館

学芸班長　中　山　　晋
主　査　棚　原　和　宏

実施団体の人員配置

総括責任者 / 事業総括・運営：樋口 洋平（沖縄平和協力センター 事務局長）

令和元年度、令和 2 年度、令和 4 年度及び令和 5 年度の「平和への思い」発信・交流・継承事業にて担当者（事業運営補佐）として事業に携わる。令和 3 年度の同事業では総括責任者として事業を運営した。また、沖縄県教育庁が実施する令和 4 年度及び令和 5 年度の「アジア高校生オンライン国際交流事業」では総括責任者を担う。

総括補佐：仲泊 和枝（沖縄平和協力センター 理事長）

令和元年度、令和 2 年度、令和 4 年度、及び令和 5 年度の「平和への思い」発信・交流・継承事業の総括責任者。令和 3 年度の同事業では、総括補佐として従事。JICA 草の根技術協力事業「地雷対策を通した平和と人間の安全保障の啓発・普及のための博物館づくり」にプロジェクトマネジャーとして従事する。

講座運営補佐・広報担当：金城 愛乃（沖縄平和協力センター 研究員）

令和 2 年度、令和 3 年度、令和 4 年度及び令和 5 年度の「平和への思い」発信・交流・継承事業の担当者として動画制作、広報、会議運営を担当。昨年度は、県内の大学生を連れてパラオ共和国へのスタディーツアーを行うなど、広報や行程管理などの経験を有する。

講座運営補佐・メディア担当：當間 千夏（沖縄平和協力センター 研究員）

沖縄県教育庁が実施する令和 4 年度及び令和 5 年度の「アジア高校生オンライン国際交流事業」の担当者として、プログラムの企画運営に従事する。また、現職以前は大学生を対象とした、グローバルに活躍できる人材育成を目的とするプログラムの運営に従事する。

6 事業実施

参加者選考

〈参加者の選考および資格要件〉

参加者については沖縄本島会場、石垣会場に参集できる者を計 40 名選考することとし、参加資格要件は以下の通りである。7 月 10 日～ 8 月 8 日の約 1 ヶ月間の募集期間中に沖縄本島、八重山地域を含めて 50 名以上の応募があった。募集期間終了後に沖縄本島と八重山地域において選考会を開催し、沖縄本島 30 名、八重山地域 10 名の受講生が選考された。

- 沖縄県在住であること。
- 沖縄本島または石垣市で実施される養成講座課程が履修可能であること。
- 令和 6 年 4 月 1 日現在、18 歳以上であること。
- 本講座終了後は、沖縄県平和祈念資料館友の会または、八重山平和祈念館友の会（仮称）、あるいは他のボランティア団体、学校等において平和講話・ガイドなどの活動を積極的に行い平和の発信に寄与する意思がある者であること。
- 本講座終了後、フォローアップ研修（1 回）に参加すること。また、1 年間の活動報告を行うことができること。

〈参加者募集の広報〉

参加者の募集については、県内で平和学習などのガイドを提供している団体、学校教員でつくる団体などに対して案内を送付した。また、特設ウェブサイトや県内の新聞広告等で告知を行い、県内の関心ある個人に周知を行った。

2 事業スケジュール

本島会場

月	日	曜日	回	内容	時間	数
9月	7	土	1	事前オリエンテーション、開会式	13:00 ～ 14:30	1.5
	7	土	2	講座：琉球王朝時代から戦前の沖縄	14:30 ～ 16:30	2
	14	土	3	講座：沖縄本島及び離島地域における沖縄戦	14:00 ～ 17:00	3
	21	土	4	講座：沖縄県の戦後復興ー戦後から現在ー		3
10月	5	土	5	講座：八重山戦争マラリア		3
	19	土	6	戦争関連遺跡及び施設のフィールドワーク（南部）	10:00 ～ 17:00	6
11月	2	土	7	戦争関連遺跡及び施設のフィールドワーク（中部）	10:00 ～ 17:00	6
	9	土	8	講座・実習　戦争体験者の語り継ぎ手	14:00 ～ 17:00	3
	16	土	9	講座・実習　戦争体験者の語り継ぎ手	14:00 ～ 16:00	3
	30	土	10	講座・実習　平和学習ファシリテート	13:00 ～ 17:00	4
12月	7	土	11	講座・実習　平和講話・ガイド語り継ぎの実践	14:00 ～ 17:00	3
	14	土	12	講座・実習　受講生による平和ガイドプランの発表	13:00 ～ 16:00	3
	14	土	13	閉会式　修了証書授与	16:00 ～ 17:00	1
				□の部分は、本島会場と石垣会場をオンラインで繋いで実施した。	13 回／ 41.5 時間	

石垣会場

月	日	曜日	回	内容	時間	数
9月	7	土	1	事前オリエンテーション、開会式	13:00 ～ 14:30	1.5
	7	土	2	講座：琉球王朝時代から戦前の沖縄	14:30 ～ 16:30	2
	14	土	3	講座：沖縄本島及び離島地域における沖縄戦	14:00 ～ 17:00	3
	21	土	4	講座：沖縄県の戦後復興ー戦後から現在ー		3
10月	5	土	5	講座：八重山戦争マラリア		3
	19	土	6	戦争関連遺跡及び施設のフィールドワーク（石垣本島）	10:00 ～ 17:00	6
11月	2	土	7	戦争関連遺跡及び施設のフィールドワーク（西表島）	10:00 ～ 17:00	6
	9	土	8	講座・実習　戦争体験者の語り継ぎ手	14:00 ～ 17:00	3
	16	土	9	講座・実習　戦争体験者の語り継ぎ手	14:00 ～ 16:00	3
	30	土	10	講座・実習　平和講話・ガイド語り継ぎの実践	13:00 ～ 17:00	4
12月	7	土	11	講座・実習　平和学習ファシリテート	14:00 ～ 17:00	3
	14	土	12	講座・実習　受講生による平和ガイドプランの発表	13:00 ～ 16:00	3
	14	土	13	閉会式　修了証書授与	16:00 ～ 17:00	1
				□の部分は、本島会場と石垣会場をオンラインで繋いで実施した。	13 回／ 41.5 時間	

沖縄本島と八重山地域の受講生は共通項目の講座についてはオンラインを利用して受講し、それ以外の講座やフィールドワークについては、それぞれの地域で異なる内容を受講した。

第 12 回および第 13 回（12/14）

沖縄本島会場

講座・実習：受講者による平和ガイドプランの発表

沖縄会場では、30 名の受講生が 3 名 1 組となり、受講生自身がガイドをする場合に、どういったことを学ぶために、どういった場所を訪問して、どんな説明をするのかについて、事前に考えた平和ガイドの内容を発表した。会場には、これまでの講座やフィールドワークを担当いただいた沖縄県平和祈念資料館友の会の皆様にご来場いただき、受講生の発表内に対してコメントをいただいた。

チーム 1

中学生・高校生を対象に、戦争をつくる教育とメディアをテーマとした企画案が発表された。紙芝居を通じて当時の社会や教育、メディアの影響を体感し、人々が沖縄戦に参加することになった経緯を考えることを目的とする。

まず沖縄戦の概要を説明し、中高生が戦場へ動員された歴史を知る。次に「死んだ米兵に石を投げる兄妹」の写真から当時の教育や世論の影響を考える。続いて戦時中の紙芝居を読み聞かせ、当時の人々が見聞きしていた内容を体感する。その後、違和感や疑問点についてグループで意見を共有する。最後にひめゆり学徒隊・宮良ルリさんの証言を朗読し、当時の人々の思いを知る。

チーム 2

小学校高学年を対象に、沖縄戦犠牲者の声を感じることをテーマとしたガイドの企画案が発表された。戦争体験者の証言活動が減少する中、紙芝居を使うことで誰もが伝える主体となることができる。

まず、仲程シゲさんの沖縄戦体験を基にした紙芝居を読み聞かせ、戦時の「声なき声」について考える。その後、沖縄戦や平和の礎に関する説明をし、紙芝居の登場人物の名前を礎で探す。昼食時には仲間と学びを共有し、午後はワークシートを活用してグループで平和祈念資料館を見学する。最後に振り返りを行い、「声なき声」にはどのような意味があるのかを考える。学びを深めるため、ワークショップやタブレットを取り入れた事前事後学習を行う。

チーム 3

高校生を対象に、ヌヌマチガマを訪れいのちの大切さについて考えることを目的とする企画案が発表された。

初めにガマの概要、戦時のヌヌチガマの状況説明及び安全確認を行う。ガマの内部ではかまどや手術場壕、病室等を巡った後暗闇体験を行い、当時の環境を五感で感じてもらう。その後、沖縄戦の実相や白梅学徒隊の経緯を振り返る。最後に生存者・中山きくさんの言葉を紹介し、平和の意義について考える。戦争体験者ではない語り継ぎ手として、体験者の話を元にモノローグからダイアローグへとつなげ、見学後も安全に話し合える場を作り、生き残ることで繋がった命や平和について考える場を目指す。

チーム４

県内外の中高生を対象に平和祈念公園内の場所を巡り、自分と当時の同年代の学徒とを重ねて学び、自ら考えることを目的としたガイドの企画案が発表された。

はじめに、健児の塔で沖縄の地図を使いながら当時の状況についての質問をし、その答えに応じて分かれるワークを行い、今の自分の考えや思いを認識する。その後、沖縄戦の概要と巻き込まれた学徒たちについて説明を行う。次に、健児の塔から学徒隊の碑に向かって丘越えをし、当時の様子を体験する。その際、最後の司令部壕も見てもらえるよう声掛けを行う。また、学徒隊の碑の前で学徒隊について説明を行い、ひめゆり以外にも学徒隊がいたことを伝える。最後に平和の礎を見学する。記銘されている全ての人や県民の人数や今の自分たちと戦争で亡くなった方々との繋がりを伝え、他人事ではないことなどまとめを行う。

チーム５

西原町内の小学校高学年から高校生を対象としたガイドの企画案が発表された。戦争が当時の西原の人に与えた影響とそこからの学びを考えることを目的とする。

ツアーでは、西原の塔、戦没者刻銘碑、西原村役場壕跡で戦前の生活や戦時の犠牲者等について学び、三本ガジュマルで、戦後住民が米軍に対抗するために使用した「ボンベの鐘」の歴史に触れる。小波津集落では弾痕の残る石塀を見ながら、戦闘の激しさを実感する。サトウキビ畑では当時の避難生活を想像し、子どもたちに問いかけを行う。最後に西原町役場で憲法９条の碑を訪れ、非核反戦平和都市宣言について考える。

チーム６

高校生を対象としたガイド企画が発表された。戦争体験者が減少する中、ガマのような「モノ」を通じて沖縄戦の記憶を継承し、戦争の影響を考えることを目的とする。

まず沖縄戦の概要を学び、ガマが戦前の生活の場から戦時中は避難所や野戦病院へと変わったことを学ぶ。安全確認と黙祷の後、ガマ内部に入り、住民と日本軍が混在した状況を説明する。暗闇体験やロールプレイを通じて、戦時の住民の経験を疑似体験し、戦争の悲惨さを実感する。最後に、戦争遺跡の重要性と歴史を語り継ぐ役割について考える。非体験者が体験者の声を受け継ぎ、沖縄戦の記憶を未来へ伝えていくことの大切さを学び、基地問題など現代にも続く影響について考える機会とする。

チーム７

県内外の中高生や大学生・専門学生を対象とした企画案が発表された。ワークショップ型のアプローチを用いて、平和の大切さを実感することを目的とする。

まず、参加者は「自分にとって幸せを感じるとき」を葉に見立てた「幸せの木」を作る。その後、戦時中にその幸せなことができるかどうかを想像させ、戦争で幸せの木が枯れ木のようになることを理解する。さらに、戦時と現在の沖縄、過去と現在のウクライナを比較し、平和と戦争が紙一重であることを考える。その後、資料館を見学し、感じたことを友人や家族と話し合ってもらい、平和について主体的に考える機会とする。また、平和にとって自分が幸せであることの重要性を伝える。

チーム 8

高校 2 年生 40 名を対象としたガイドの企画案が発表された。南風原陸軍病院の跡地を訪れ戦時中の医療環境の実態を学び、平和と人権について考えることを目的とする。

まず、南風原町の地理的特徴、陸軍病院壕の概要や壕内の状況について学び、負傷者が満足な治療を受けられず苦しんで命を落とした状況を知る。次に、壕内を歩く、実物を見る、匂いを嗅ぐ、証言を聞く等の体験を通して当時の状況を想像する。その後、病院の歴史を振り返り、戦争で人命が軽視されたことを考える。さらに、憲法 9 条の碑や鎮魂と平和の鐘に込められた願いを知ることで、戦争の教訓を未来へつなげる機会とする。

チーム 9

中学生・高校生・大学生を対象とした学習プログラム案が発表された。旧陸軍第 24 師団第 2 野戦病院壕を訪れ、ふじ学徒隊の歴史を通して戦争が人権を踏みにじることを考えることを目的とする。

まず、ふじ学徒隊の概要や皇民化教育の影響を学び、戦時中の教育がどのように個人の意思を抑圧し、死を肯定する価値観を植え付けたのかを考える。また、行政官の責任や学徒隊動員について学ぶ。最後に、戦時下の命の扱いと現代社会とのつながりを考え、戦争の教訓を自分たちの問題として問い直す機会とする。立ち入りのできない壕については視覚情報を活用し当時の状況をイメージさせること、組織と個人を混同させないことに気を付ける。

チーム 10

沖縄県内の学生を対象とした学習プログラム案が発表された。対馬丸事件を通じて犠牲者の思いを考えたり戦争の悲惨さを学び、命の大切さや平和の尊さ、自分の夢について考えることを目的とする。

事前学習では、アニメ『対馬丸 さようなら沖縄』の視聴と調べ学習等を行い、学びを深める。当日は、館外で対馬丸と小桜の塔の概要を学び、ワークシートを活用して館内を見学する。ワークシートは、対馬丸事件や学童疎開、戦前の教育や緘口令等に加え、自身の感想や疑問を記入する。その後、グループワークを行い、心に残ったことや、将来の夢、自分にとっての平和や平和のためにできることを他の参加者と話し合ったうえで、まとめを行う。

第 12 回および第 13 回（12/14）

石垣会場

講座・実習：受講者による平和ガイドプランの発表

石垣会場では、10 名の受講生が 2 名 1 組となり、受講生自身がガイドをする場合に、どういったことを学ぶために、どういった場所を訪問して、どんな説明をするのかについて、事前に考えた平和ガイドの内容を発表した。会場には、これまでの講座やフィールドワークを担当いただいた講師陣の皆様にご来場いただき、受講生の発表内に対してコメントをいただいた。

チーム 1

沖縄県外から来た社会人を対象者としたガイドの企画案が発表された。本土の戦争、沖縄本島との戦争とも異なる戦争で、八重山地域だからこそ伝えられる戦争というのは「八重山戦争マラリア」であると思い、フィールドワークを取り入れたツアーを考えた。ツアーでは、八重山平和祈念館にて八重山戦争マラリアの全体像を理解した後に、波照間島の住民が疎開させられた西表島の南風見田に移動する。南風見田では、案内板を見ながら当時の様子を説明し、忘勿石やその碑、疎開小屋跡地などを訪れる。注意事項として、南風見田の浜は潮位によっては、見学できない場所もあるため、事前に潮位を確認する必要がある。

チーム 2

石垣島内の中学生を対象にしたガイドの企画案が発表された。企画では複数回のフィールドワークを行う。第 1 回では対象となる生徒との応答を交えた形で石垣島島内にある戦跡や碑について説明を行った後、その中で石垣島から特攻に向かった伊舎堂用久（イシャドウ・ヨウキュウ）中佐たちを取り上げる。その後は、掩体壕へ移動する際の車中で特攻について追加説明をしながら、戦時中には生徒たちと年齢の近い青年たちが戦争に行かなければならなかったことを伝え、生徒たちに自分事として考えてもらう機会を提供する。

チーム 3

石垣島内の小学生の低学年を対象としたガイドの企画案が発表された。戦争遺跡や軍事施設があった場所の訪問を通じて当時の小学生の様子を理解してもらうことを目的として、登野城小学校、八重山農林高校などを訪問する。

登野城小学校には、現在も奉安殿跡が残っているため、児童に戦時中に奉安殿の前で最敬礼をする様子の写真を見せて当時の様子を想像してもらう。また、その他の写真を見せながら当時の小学生が戦時下でどういう生活をしていたのかを説明する。

チーム 4

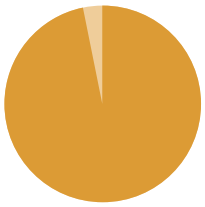
沖縄本島から訪れた 60 代の方々を対象者として、八重山の戦争を知るというテーマで作られた企画が発表された。企画では、まず事前学習となる座学で八重山の戦争について学ぶ時間を 2 時間程確保し、昼食を挟んで午後からフィールドワークを行う計画となっている。座学では八重山地域で空襲に対応した戦禍をくぐり抜けるために、日本軍が住民に戦時協力体制を求めていく過程を説明する。フィールドワークでは、暁之塔を訪れて野戦病院の当時の状況などを説明する。その後は八重山戦争マラリア犠牲者之碑に移動して、慰霊碑のデザインの持つ意味や慰藉事業について説明を行い、別の戦争遺跡に移動する。

チーム 5

海外から訪れた観光客の方々を対象として、「八重山の戦争×外国～八重山の戦争の中に外国をみる～」というテーマで企画が発表された。観光が主たる目的として訪れている方々を対象としているため、企画では観光を楽しめる要素を盛り込みつつ、外国人とのつながりがある戦争遺跡として電信屋跡地、石垣島事件慰霊碑・唐人墓、マクラム道路などを訪問する。例えば、電信屋跡地は沖縄本島と台湾の基隆と結ぶ海底ケーブルの中継地となっていた。また、石垣島事件の慰霊碑では、今でも慰霊祭が行われている点などを伝える。

1 アンケート結果

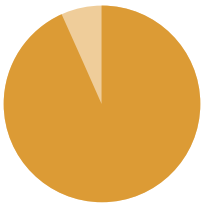
沖縄戦や戦後の沖縄に関する総合的な理解度



98%

「よく理解できた」「理解できた」と回答した参加者

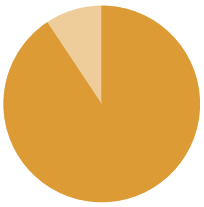
「沖縄戦の語り継ぎ手」としての心構え、準備などに関する理解度



93%

「よく理解できた」「理解できた」と回答した参加者

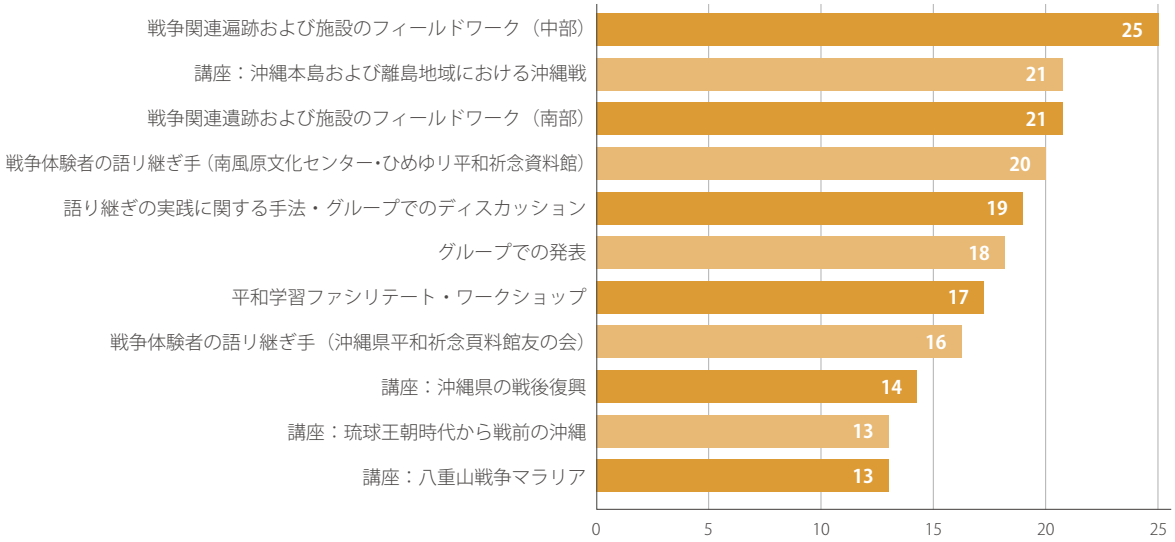
スケジュール・運営に関する満足度



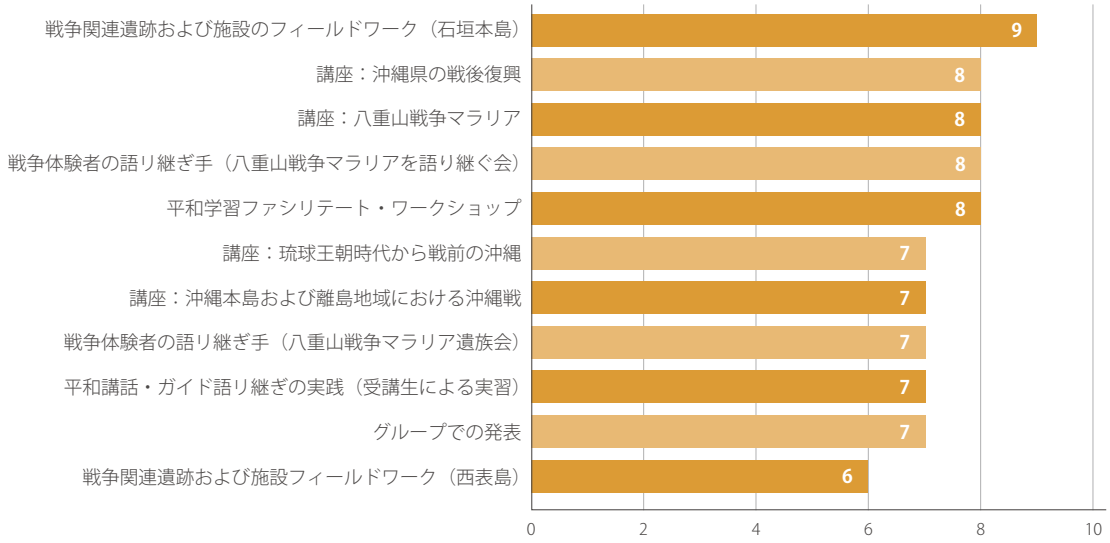
88%

「とても満足」「満足」と回答した参加者

特に満足度が高かったと感じるプログラム　本島会場（複数回答可、回答数：30）



特に満足度が高かったと感じるプログラム　石垣会場（複数回答可、回答数：10）



本プログラムを終えての感想

【本島会場】

今回語り継ぎ養成講座を受けてこれまで自分自身だけでは学ぶことができなかった事を幅広く学ぶことができとても良かったです。（…）今までこうやって専門的に沖縄戦や平和について学ぶ機会がなかったので、共に学ぶ仲間たちと共にこの場を共有し、さらに沖縄戦を通して命や平和の尊さを次世代へ繋いでいきたいという想いもすごく強くなりました。まずは自分の足元から平和を作る一歩を踏み出していきます。

お伝えくださった講師の先生やワークショップ、グループワークで関わったみなさんのお陰で、これまで【なんとなく】知っていた沖縄戦が少しだけ、自分事として吸収できたような感覚がある。とはいえ、私の知らない沖縄戦はまだまだ膨大な量がある。これからも少しずつ学びを続けていきたいと思う。

沖縄戦を多様な視点で学ぶことができました。実践的なガマ体験だけではなく、歴史的な背景、資料館の活用、ワークショップなど多様な学びを通して、沖縄戦を伝えられるピースフルメッセンジャーとして頑張りたいです。ありがとうございました。

沖縄戦の内容を知れば知るほど、現在の状況にカタチを変えて、同じことが繰り返されていることを実感しました。絶望のどん底にいますが、ささやかながらでも出来ることに取り組んでいきます。

友の会の方々の知識の量やガイド手法の素晴らしさに圧倒されました。自分がガイドになるにはまだまだ勉強不足だということを痛感しました。（…）同じ受講生の皆様からも学ぶことがたくさんありました。今回出会った受講生の方との繋がりを今後も継続していけたらと感じています。

最後の学習計画発表がとても興味深かったです。伝え方にも色々な方法があるとわかりました。相手に、よりわかりやすく伝えるためにはどんな工夫が必要か。子どもや大人、学年や事前学習の有無などによってもさまざまな工夫ができるなと思いました。

参加者間で「沖縄戦を風化させない」「平和を作りたい」という思いは共通していたが、見る角度や方法論は一人一人異なっていることを実感し、複雑ではあるが可能性に溢れているのではないかと今後に期待が膨らんだ。私自身は本事業を通してまだ表面的な理解にとどまっていると感じたため、今後も沖縄戦の内容理解のために学び続けたい。

「沖縄に生まれ育った 1 人の若者として、同世代や次世代に沖縄戦や平和を伝える方法を模索する」という目標に関して、講義・フィールドワークや参加者との関わりを通じて発見や気づきを得ることができたと感じている。まずは友達や家族、学内のコミュニティなどといった近い範囲から私の経験や考えを広めるとともに、多くの若者が一緒に沖縄戦を学び平和を構想する機会を作り、1 人でも多くの人に沖縄戦への理解や平和への意識を普及させたい。過去から現在と多くの問題を抱える状況にあるが、将来、沖縄を中心とした平和構築を行うべきであり、それは実現可能であると強く思った。

私は本事業に参加し、沖縄戦継承のあり方について問い直すことができました。（…）これからは、沖縄戦を語る「モノ」にもしっかりと目を向け、沖縄戦を学んでいきたいです。（…）しかし、「モノ」を保存するだけでは、十分に語り継いでいくことはできないということも学びました。継承には、沖縄戦を語る「人」が必要になります。ですが、体験者が減少している今、「人」は語り手（体験者）から語り継ぎ手（非体験者）に変わりつつあります。体験者の想いや声に耳を傾け、それを未来に紡いでいくことが非体験者に託された重要な使命なのではないかと思います。

沖縄の歴史や沖縄戦についての講義から、沖縄の人々の生き様について学び、学校教育、社会教育につなげる大切さを考える機会になりました。何を大切に生きていくのか、何を語り継いでいくのか、どんな社会をつくりたいのか、を考え続けていきたいと思います。講座に参加されたみなさん、それぞれの境遇や考えを聞かせてもらったことも大変貴重な機会でした。このような対話やつながりが「平和」をつくる礎になっていくことを感じました。

最後のグループでの発表について、できれば事前に大枠でいいので、例えば『①ガマについて案内したい②学徒隊について案内したい③ワークショップで伝えたい④戦後～基地について案内したい』などアンケートとっておいて、そこからグループを細かく組んだ方が案内したいことは基本同じだから発表もスムーズだと思いました。もしくは、1人5分でもいいので個人で発表でもいいと思いました（時間は長くなりますが、伝わると思います）。

沖縄戦の悲惨さは知っていたものの、曖昧なイメージでしかなかったものが、具体的に学ぶことができ、ますます伝えて行かなければという使命感を持つとともに、ガイドとして実際に活動するには膨大な知識が必要であると感じ、圧倒された。1回で終わりではなく、複数回に分けて講座があったため、参加者たちとも交流を深めることができ、その点も非常に良かった。

80年も経つと次世代や子供達にどう伝えていくのか、皆様がそれぞれ同じように悩み、このような機会に応募して来たのだと感じ、仲間がいる事が非常に嬉しかったので、全ての講座が愛おしくて有難く、参加して本当に良かったと感謝申し上げます。沖縄戦などに関する知識をたくさん習得でき、とても良い機会になりました。地域やそれぞれの分野から違った景色が見えるのも良かったです。

大城先生のお話で、伝えたいことはたくさんあっても、話せることは時間の都合で氷山の一角でしかないのだが、多くの市町村でも市史を作成している所が多くそれを閲覧し知る事はできる。氷山の部分を増やしておくことで、様々な状況の中で伝わる話ができる助けになるというのが心に残りました。史実を正しく深く学ぶ事の重要性を感じ、意識も高まりました。

グループワークで受講者の方と交流しながら、勉強できたことがよかったので、最後の発表だけでなく、何度かグループワークを取り入れることで受講者の間で知識を交換して互いに向上していけると思います。

当時、皇民化教育を推進した学校現場で、平和を説く教員が排除されていった状況や、日本国憲法の平和主義が沖縄に米軍基地が存在する事で成り立っている事など、見落としがちな視点に気付かせていただけた事に、とても感謝しています。

沖縄戦を学ぶ前に戦前から触れて時系列ごとに辿れたのがとても良かった。今まで、沖縄戦に関心はあっても戦前や戦後にフォーカスを置いて学ぶ機会が少なかったので、琉球処分から基地に繋がる流れを改めて学ぶ事ができてよかった。また、沖縄戦の学習と平行してガイドをする際のポイントなどを教えてもらえるのも、すごくタメになった。特に、ファシリテーション講座は、ガイドが1人語りで話すのではなく、ロールプレイなどの手法を取り入れることで興味を引き出す事を体感を通して学べたので、これから現場に行く際には私もやってみようと思った。

どの講座も、とても勉強になりました。沖縄戦について知らなかったことをとてもたくさん勉強でき、得るものがとてもたくさんありました。ですが自分がいざ語り継ぎ手として活動していくためには、実際の講話の構想を練ったり、諸先輩方の講話をもっと沢山勉強させていただいてからでないと、難しいと感じました。

友の会の方々からアドバイスをいただき、まずは身近な人に話してみることからという言葉をいただき，いい意味でハードルが下がり気もちが楽になりました。引き続き個人レベルでできることをやりつつ、事務局からいただいた依頼や情報をチェックしながら“平和、沖縄戦”に携わり続けたいと思います。沖縄に生まれた一人として沖縄戦とは一生向き合っていくべきものであり、背負っていくものですが、戦争体験者から話が聞けなくなる後輩たち、若い世代、そして自分の子供へは私の言葉で語り継いでいきたいと思います。

参加者の皆さん様々なバックグラウンド、経験をお持ちで平和教育に対しての想いや熱意に刺激を受けました。今後は講座で学ばせて頂いたことを踏まえて、最終発表をきっかけに特に関心を持った自分の住んでいる地域での沖縄戦についてより理解を深めたいと思います。身近な場所から理解を深めることでより当時の出来事の結びつきを学べるのではないかなと思います。

【石垣会場】

関心が高くても自分では行けない現場を見学することで、身の引き締まる思いでした。当時の方々に思いを馳せ、今後も平和学習や語り継ぎを学んでいきたいです。実際にガイドを出来るようになるには、歴史や年代の自習も必要かとは存じますが、見学に来られる方のほうが実体験者であったり歴史の専門家であったりする場合も多いと思われますので、専門的なことは資料の共有などで補足しながら、自分にできることでお役に立てれば幸いです。

過去に私たちが受けてきた平和教育は、本質を伝えることができていなかったのではないか、だからすぐ右か左の問題にすり替えられてしまうのではないか、手法が形骸化し、答え合わせをして自己満足するか、それに拒否反応を示すかになりがちだったように思います。だからこそ、自分なりに試行錯誤はしてきたつもりではあったものの、ひとりで考えることに限界も感じていました。

今回の講座を受講して、たくさんの学びとヒントを得ることができました。専門家による歴史の講座、体験者の話、そして、平和学習の手法のワークショップとバランスよく学ばせてもらいました。特に平和学習ファシリテートの講座は、たくさんのヒントを得ることができました。

沖縄の平和学習は、移住者として見てきて、大切なことを続けていると思ってきました。しかし、伝え方の工夫が大切なことを今回の研修で知ることができました。 石垣島自体の歴史をもっと学んで、その上での平和学習語り継ぎ手として、戦争マラリアのことを再度勉強したいと思いました。

講義と本格的なフィールドワークを体験することができ、意義深かったと思います。沖縄戦について学び、語り継いでいこうという有志の方々と知り合うことが出来たことは、今後の学習や活動につながるきっかけになり、大変勇気付けられました。今後、学習も重ね、八重山平和祈念館友の会結成へ結び付けたいと思います。

教職現職の時に沖縄戦・八重山の戦争、戦後史を聴き、読み、考える機会に学んで伝えてきたつもりでしたが、自分の学んできた蓄積の浅さに猛省でした。改めて「語り継ぎ手養成」という観点でのプログラム講座を企画していただいたことに感謝の思いです。

戦争体験者からの言葉と想いを可能な限りリアルに伝える事に終始していたが、ファシリテート・ワークショップを通して「深く考えさせる」そして「行動」するために受講生（聴講者）に自らの課題を発見させる、そのような平和教育・ガイドをできるようになりたいと思いました。過去と現在の国際状況（戦争は終わってない）を比較した提示型ファシリテート・ワークショップはとても多くの示唆を受けました。もう少し時間がほしかった。来年６月に八重山高校での平和教育を依頼されているので、玉城直美さんから提起された思考と起動に繋がるようなワークショップを展開できるよう今から準備していこうと思っています。

今回の「戦争語り継ぎ手講座」を受講したことで、戦争マラリアの八重山群島域の歴史や被害の詳細を知ることができました。住民がマラリア媒介蚊の生息地に軍命により避難をした白水地区の現地視察では、鬱蒼と茂った森に多くの住民の野営の跡や天皇の「御真影」を守るための壕を初めて見ることができ、戦争の惨たらしと平和への尊さを改めて思い知らされた次第です。

世界ではウクライナ戦争やガザ紛争等が各地で起きている中で、「台湾有事」もあり八重山諸島の住民が九州への避難が計画されるなど「戦争前夜」の話題が飛び交う沖縄県です。その為、沖縄戦における戦争マラリアや史実を「戦争語り継ぎ手」として後世に繋げていく道標として受講できたことに感謝をしたいと思います。

石垣市内に遺構が多く残っている事に感動しました。離島の戦時中の様子が本島にいると学習する機会が専門で無い限り入ってこないので、大変勉強になります。

平和についての概念理解に変化があった。平和学習とは戦争に反対するだけでなく、差別や貧困など構造的な暴力に反対することでもあるのだと知り、目から鱗だった。

戦争までの講座はそれぞれが独特な切り口から歴史を見ていて受けて楽しかった。もっとあったら楽しい。ファシリテートはどのような内容をやるか・やってきたか知ってはいたが、実際にやることでより私たちがすべき活動の方向性の一部がハッキリして、参加できて良かったと思う。